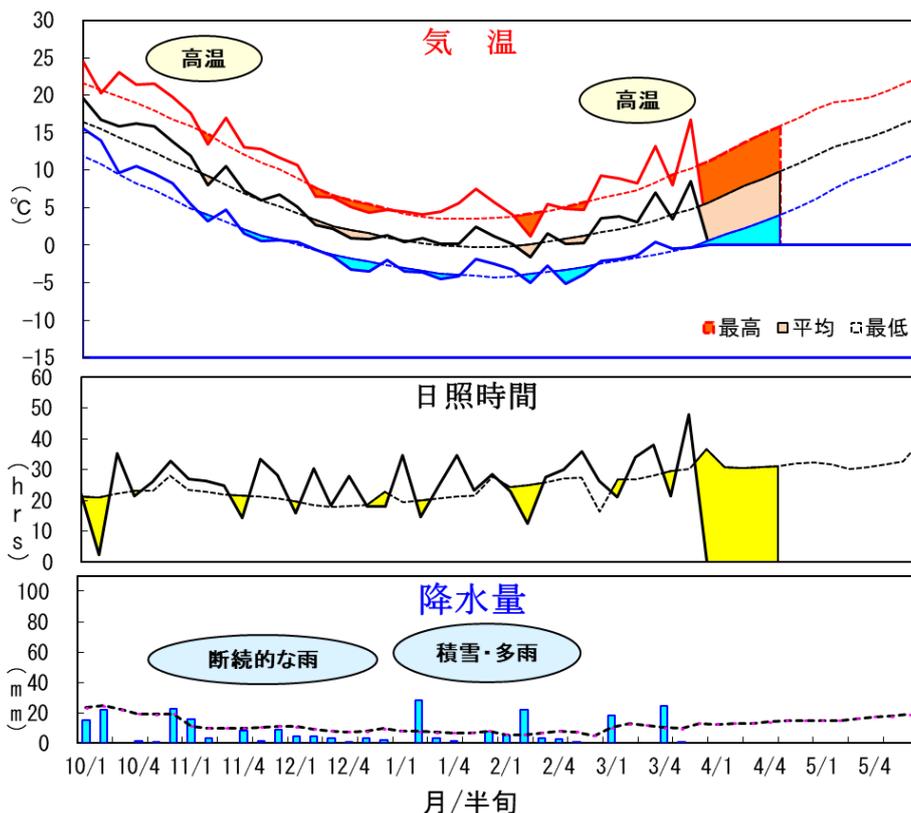


～減数分裂期は概ね平年並み，出穂期はやや早まる見込み～

1 これまでの気象経過（古川アメダス）



2 東北地方の1か月予報【3月22日～4月21日までの天候見通し 気象庁HPより】

- ・東北太平洋側では，天気は数日の周期で変わり平年と同様に晴れの日が多い。期間のはじめは，気温がかなり高くなる見込み。
- ・気温は，**高い確率 50%**，平年並みの確率 30%，低い確率 20%。
- ・降水量は，**多い確率 40%**，平年並み若しくは少ない確率 30%。
- ・日照時間は，**多い若しくは平年並みの確率 30%**，少ない確率 40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 03/22～04/21	20 (Low) 30 (Normal) 50 (High)
		1週目 03/22～03/28	10 (Low) 10 (Normal) 80 (High)
		2週目 03/29～04/04	30 (Low) 30 (Normal) 40 (High)
		3～4週目 04/05～04/18	20 (Low) 40 (Normal) 40 (High)
降水量	東北地方	向こう1か月 03/22～04/21	30 (Low) 30 (Normal) 40 (High)
日照時間	東北地方	向こう1か月 03/22～04/21	40 (Low) 30 (Normal) 30 (High)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3 生育状況

(1) 古川農業試験場内 作況試験ほ場 (3月18日調査, 画像は3月21日現在)

- ・草丈は, 概ね平年並み~やや下回っている。
- ・茎数及び葉数は, 概ね平年並み~やや多い。

	品種・区分	草丈			茎数			葉数			葉色
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年 (GM値)
大麦	シュンライ 中旬	13.4	92	94	992	138	112	8.3	-0.7	0.7	49.9
	同 下旬	8.8	70	87	733	96	99	6.6	-1.2	0.2	53.1
	ミノリムギ中旬	12.0	74	84	1115	128	115	8.4	-0.9	0.4	50.7
	同 下旬	10.7	78	97	1014	91	126	7.1	-1.0	0.3	51.8
小麦	シラネコムギ中旬	15.3	93	101	1137	129	129	8.2	-0.6	0.1	41.1
	同 下旬	11.7	81	95	852	77	101	7.5	-0.9	0.5	46.8
	夏黄金 中旬	11.6	84	92	1204	128	133	8.2	-0.5	0.4	44.9
	同 下旬	9.9	85	102	935	92	131	6.6	-1.3	0.1	50.3

注1) 中旬は10月18日, 下旬は10月31日に播種。

注2) 平年値は, 過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注3) 葉色は令和6年播種から測定を開始したため前年差, 平年差は無い。

- ・大麦の幼穂長は 2.4~5.4mm で平年より 0.1~1.8mm 長い。いずれも幼穂形成期を過ぎている。
- ・小麦の幼穂長は 1.0~1.8mm で, 概ね平年並である。いずれも幼穂形成期に達している。

	品種・区分	幼穂長			幼穂形成始期		
		本年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)
大麦	シュンライ 中旬	5.4	0.4	1.8	1/6	1/5	1/24
	同 下旬	2.4	-1.8	0.1	2/19	2/12	3/3
	ミノリムギ中旬	3.3	-1.1	0.1	1/20	1/16	2/5
	同 下旬	2.5	-0.8	0.3	2/21	2/13	3/4
小麦	シラネコムギ中旬	1.8	-0.2	0.2	3/10	2/23	3/4
	同 下旬	1.2	-0.5	0.2	3/15	3/6	3/19
	夏黄金 中旬	1.7	-0.7	0.0	3/14	2/24	3/6
	同 下旬	1.0	-0.8	-0.1	3/18	3/5	3/20

注1) 平年値は, 過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注2) 幼穂形成始期: 幼穂長が1mmに達した日。



【作況試験 シュンライ 10月18日播種】



【作況試験 シュンライ 10月31日播種】



【作況試験 ミノリムギ 10月18日播種】



【作況試験 ミノリムギ 10月31日播種】



【作況試験 シラネコムギ 10月18日播種】



【作況試験 シラネコムギ 10月31日播種】



【作況試験 夏黄金 10月18日播種】



【作況試験 夏黄金 10月31日播種】

(2) 減数分裂期、出穂期等の本年予測値（3月18日現在）

- ・減数分裂期は概ね平年並み、出穂期はやや早まる予想である。
- ・3月に入ってから平年より気温が高めであることから、生育が更に早まることも考えられるので、幼穂長を調べて生育ステージを確認しておくことが重要である。

	品種・区分	減数分裂期			出穂期			開花期		
		本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)	本年 (月日)	前年 (月日)	平年 (月日)
大麦	シュンライ 中旬	4/12	4/4	4/12	4/21	4/15	4/23	4/29	4/22	4/30
	同 下旬	4/20	4/8	4/18	4/27	4/20	4/28	5/4	4/22	5/4
	ミノリムギ中旬	4/18	4/10	4/17	4/27	4/19	4/28	5/3	4/25	5/4
	同 下旬	4/21	4/12	4/21	4/30	4/21	5/2	5/5	4/26	5/6
小麦	シラネコムギ中旬	4/22	4/18	4/24	5/2	4/26	5/3	5/14	5/5	5/13
	同 下旬	4/25	4/21	4/26	5/5	4/28	5/7	5/15	5/6	5/16
	夏黄金 中旬	4/23	4/17	4/24	5/2	4/26	5/3	5/13	5/5	5/13
	同 下旬	4/26	4/20	4/26	5/5	4/28	5/6	5/15	5/6	5/15

注1) 平年値は、過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年の平均値。

注2) 減数分裂期: 幼穂長が3cmに達した日。

注3) 出穂期: 全茎の40~50%が出穂した日。

注4) 開花期: 全穂数の40~50%が開花した日。

注5) 予測値は予測シートver4.0を用いた値。

4 今後の技術対策

(1) 排水対策

- ・節間伸長期から登熟期にかけては、特に湿害に弱い。粒の充実不良により千粒重が軽くなり、収量・品質が低下する。また、隣接ほ場に水稻が作付けされている場合は、横浸透によって水が浸入するので、排水対策を徹底する。
- ・本年は比較的積雪が多く、融雪の影響で明渠が崩れているところが見られるので、ほ場をよく見回り、停滞水が発生している場合は早急に改善する。

(2) 麦踏み

- ・幼穂長が3mm以上になってからの麦踏みは、麦の生育に有害になるので、晩限としては茎立ち（主稈長2cm、幼穂長2mm程度）までとする。
- ・**3月18日現在の幼穂長から判断すると、大麦は適期を過ぎており、小麦も終盤と思われる。**

(3) 追肥

- ・幼穂形成期の追肥は有効茎歩合を向上させ、穂数を確保する。幼穂長が2～3mmの時が目安で、この頃から茎立ちし、幼穂や節間の伸長が急激に進む。
- ・幼穂形成期頃の窒素栄養状態の悪化は有効茎歩合の低下を招くが、窒素を過剰に施用すると節間伸長により倒伏の原因となるので、適期・適量施用に努める。

・**追肥時期が遅れると、効果が十分に得られないので、幼穂長を確認し適期に実施する。**

◆幼穂長から判断する減数分裂期追肥の適期は、以下の図を参考にする。

①大麦の場合【宮城県 普及に移す技術 第81号】

- ・幼穂長30mmにおける止葉葉耳間長の目安は「シュンライ」で+3cm程度、「ミノリムギ」で+1cm程度である。
- ・幼穂長20～30mmの伸長期間は、概ね3～4日間である。

・**追肥時期が遅れると「硬質麦」が発生しやすくなるため、ほ場で追肥作業の目安を判断するときは、全茎数の10～20%程度が止葉葉耳間長±0mm以上に達した時期が適当である。**

幼穂長		20mm		25mm		30mm
葉耳間長(mm)	シュンライ	-30～-19	→	-12～0	→	+23～+39
	ミノリムギ	-36～-23	(1～2日)	-25～-15	(1～2日)	+5～+18
葉耳間長の形態的推移						

②小麦の場合【宮城県 普及に移す技術 第83号】

- ・減数分裂期（幼穂長 30～50mm）における葉耳間長の目安は「シラネコムギ」で-30～+30mm程度である。
- ・葉耳間長±0mm頃から出穂期に達するまでに必要な日平均積算気温は、「シラネコムギ」で100℃程度である。
- ・葉耳間長±0mm頃から出穂期に達するまでの日数は、平均気温12℃の場合、「シラネコムギ」で8～9日程度である。
- ・ほ場で追肥作業の目安を判断するときは、**全茎数の40～50%程度が止葉葉耳間長±0mm以上に達した時期が適当である。**

幼穂長		30mm		40mm		50mm
葉耳間長(mm)	シラネコムギ	-30mm	→	+3mm	→	+30mm
	ゆきちから	-35mm	1～2日	±0mm	1～2日	+25mm
葉耳間長の形態的推移						

- ・追肥時の窒素量は、下表を目安とする。

追肥の種類 (生育ステージ)		幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長30mm)	穂揃期 (8～9割が出穂)
目的		有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質 含有率の向上
大麦	時期	2月下旬～3月中旬	4月下旬	硬質麦防止のため 実施しない
	施用量	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	
小麦	時期	3月下旬～4月中旬	4月下旬～5月上旬	5月中旬
	施用量	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	窒素成分4～5kg (硫安20～25kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg) ※「夏黄金」は2倍

- ◆もち麦品種「ホワイトファイバー」の場合は、以下を目安とする。

「ホワイトファイバー」の栽培では、健康に有益な機能性を持つ水溶性食物繊維（β-グルカン）の含有率を維持するため、減数分裂期の追肥は右図を参考とする(宮城県普及に移す技術96号)

